

9 記録・資料

(資料編解説を含む)

記録様式や各種資料について、これから準備する場合や、すぐに手に取れるものがない場合に使用できるものとして、「資料編」に各種の例を収録しています。

使用方法や、注意すべき点を下記にまとめます。

1. 記録

(1)なぜ記録が必要か

正確な情報伝達のために、記録は不可欠です。

災害後の振り返り、活動の改善にも用いられます。

(2)記録の基本

所属や職種で決められた様式があればそれを使用することで共有がスムーズになります。

(平時に確認しておきます)。

応援用務では支援先で使われる様式を活用します(原則)。

(3)記録の種類

①「適時に情報共有する」ための記録

・「EMIS」や「J-speed」

web 上で情報入力・閲覧が可能。平時から操作に慣れておく必要がある。

(【コラムP33:災害時の情報連携を支える「EMIS」と「J-SPEED」】参照)

・各種本部・各種事務局、支援者間で使用されるもの

ホワイトボードや壁に貼ったシートに書き出す、LINE 等のアプリで随時情報共有する等。

②「相談内容を記し、残す」ための記録

様式を準備することで、担当者が変わっても、同じ視点で情報共有ができます。

・医師記録(一般医療用)(精神科医療用)・・・別添資料①②

・保健師等健康管理スタッフ記録・・・別添資料③

・保健福祉活動を行った全体の記録・・・別添資料④

③その他

避難所の見取り図や地域の地図、様々なものが情報共有として使用されます。

正式な記録に記載する前の情報伝達は、音声言語では後に残らないため、付箋や電子メモなど活用してください。これら全てにおいて、個人情報の取り扱いに注意を要します。

2. 各種資料

(1) アセスメントに関するもの

各種のアセスメントツールは、被災者の状況を客観的に把握することに役立ちます。

アセスメントをとる際、被災者は出来事について思い出すことが多くなります。症状悪化につながらないように、健康教育の実施や、支援に関する情報提供等をセットで行って下さい。

(例)

目的	巻末資料(番号) 入手しやすい資料等	使い方など
抑うつ状態のチェック	K6/K10(別添資料⑤)	資料に記載
アルコール問題のチェック	CAGE(久里浜医療センターHP)	
健康状態全般や、心の健康に関するチェック項目	災害診療記録の「精神保健医療版 J-SPEED」欄チェック項目8~27	
災害の影響を確認	SQD(別添資料⑥)	資料に記載
支援者のストレスチェック	別添資料⑧	

さらに詳しいアセスメントが必要と思われる時、使用方法に迷うときは、健康管理部門に相談してください。

(2) 健康教育(心理教育)に関するもの

各種の情報提供は心の回復に役立ちます。別添の資料は一例ですが、相談先の情報を加えるなど、地域の状況に合わせて加工できます。

【コラムP32:健康教育(心理教育)と心の回復】を参照いただくと共に、必要に応じて最寄りの保健福祉事務所や精神保健福祉センターなどにご相談ください。

(例)

提示する対象	巻末資料(番号) 入手しやすい資料等	使い方など
被災者すべて	別添資料⑨及び⑨(2)	【コラムP32: 健康教育(心理教育) と心の回復】 ・特に「(2)使用方法とねらい」を参照
お酒を飲まれる方 被災者すべて	別添資料⑩	
高齢者のご家族	別添資料⑪-1	
子どもがいる家族	別添資料⑪-2	
被災地で活動する支援者	別添資料⑫	



【コラム：健康教育(心理教育)と心の回復】

人は経験したことがなく、自分の力ではどうにもならないと感じるような出来事から大きなストレスを受けます。今何が起きているのかを知ること、自分や大切な人に関する見通しが持てること、適切な対処方法を知ることが、自然な回復力を高めます。

こうした情報をわかりやすく伝える方法を「健康教育(心理教育)」と呼ぶことがあり、心のケアの大切な手法の一つです。具体例は「9-2 各種資料について」で述べた通りです。

(1)健康教育(心理教育)のねらいと内容の例

① 支援に関する情報が得られる

支援者の情報。所属、名前、何ができるか等。

どこで相談ができるか。各種の情報がどこで得られるか、心配な時にどこに声をかければいいのかを具体的に伝える。

② 正しい知識を得る

ストレスや心の回復に関する一般的な知識。特にストレス反応は自然なもので、適切な対処によって回復することを伝える。

要配慮者は一般の避難者とは異なる反応を示し、特有のニーズをもって支援を必要としていることがあり、家族や要配慮者を支援する支援者がその様子を正しく理解できるよう助ける。

③ 相談すべき状況かどうか整理される

被災者自身がどのような状態が相談すべき状況かを知ること、余計な不安をあおることなく、適切な援助に繋がりがやすくなる。

④ 対処方法がわかる

被災者自身ができるセルフケアの方法を伝える。

特に被災地で起こりがちな「睡眠」に関すること(睡眠の大切さ、良い睡眠のコツを伝える)、「アルコール」に関すること(お酒との付き合い方を伝える)はトピックスとなる。

(2)使用方法と注意・ねらいによって提供方法を使い分けます。

①全体に提示する(例えば避難所にチラシを張り出す)

…広く情報提供できるが、必要な方に届くとは限らない。

②個別にお渡しする(例えば相談を受けた際「こんなことはありませんか？」とチラシを介して話を聞きながら情報伝達もする)

…一般的な知識として伝える際に、過度の一般化や被災者の体験の価値を切り下げるような表現にならないよう注意する(「4 支援時の対応のポイント」も参照のこと)。

健康教育(心理教育)は、トラウマへのアプローチとしても安全性の高い手法であることが知られています。不明の点は佐賀県精神保健福祉センターまで、ご相談ください。



【コラム：災害時の情報連携を支える「EMIS」と「J-SPEED」】

1. EMIS とは？

EMIS(Emergency Medical Information System)は、災害時に医療機関や行政が情報を共有するためのシステムです。

- 目的：避難所や救護所の設置状況、医療機関の稼働状況、患者受け入れ可能数、医薬品在庫などをリアルタイムで把握
- 特徴：都道府県・国・医療機関間での情報連携を円滑化

2. J-SPEED とは？

J-SPEED(Japan Surveillance in Post Extreme Emergencies and Disasters)は、災害時の診療概況を記録・報告するための標準様式です。

- 目的：避難所や救護所での健康事象を迅速に集計し、ニーズを把握
- 特徴：スマホアプリや紙様式で入力可能、オフライン対応
- 対象職種：医師、看護師、保健師、薬剤師、精神保健医療チームなど

3. 両者の役割の違い

- EMIS：医療機関や行政の「施設・資源情報」を集約
- J-SPEED：現場での「診療・健康事象情報」を集約
→ 両者を組み合わせることで、「どこで何が必要か」を迅速に判断できる体制が整います。

4. 保健師の活用ポイント

医師が不在のチームでも、保健師が避難所巡回時に J-SPEED を入力することで、

- 発熱や感染症の発生状況
- 慢性疾患の悪化や医療フォローの必要性
を本部に報告できます。これにより、医療チーム派遣や物資調整がスムーズになります。

こうした情報共有ツールは、よりよいものが開発され、変化していく過程にあります。現場で使用されているものを柔軟に活用してください。

資料編

別添資料一覧

(記録)

- 別添資料① 災害診療記録2018(一般診療用)…(4 ページ)
- 別添資料② 災害診療記録2018(精神保健医療用)
- 別添資料③ 保健師等健康管理スタッフ用記録…(3ページ)
- 別添資料④ 保健福祉活動記録…(2 ページ)

(アセスメント・スクリーニング)

- 別添資料⑤ K6K10 チェック表
- 別添資料⑥ SQD(スクリーニング質問票)…(2 ページ)
- 別添資料⑦ IES-R(改訂出来事インパクト尺度)…(2 ページ)
- 別添資料⑧ 支援者のストレスチェックリスト

(各種チラシ)

- 別添資料⑨ 災害にあわれたみなさまへのチラシ
 - ⑨(2) 気軽にできるリラクゼーション
- 別添資料⑩ 被災地における飲酒についてのチラシ
- 別添資料(要配慮者向けチラシ)
 - ⑩-1 高齢者を見守るご家族へのチラシ
 - ⑩-2 子どもを持つご家族へのチラシ
- 別添資料⑫ 支援者のメンタルヘルス…(3 ページ)

(参考資料)

- 別添資料⑬ 各フェーズにおける災害支援活動と心のケアのポイント(A3)
- 別添資料⑭ 支援者のための佐賀弁講座
- 別添資料⑮ 関係機関リスト

別添:

- 「災害時心のケアマニュアル」第2版 ショートバージョン…(6 ページ)